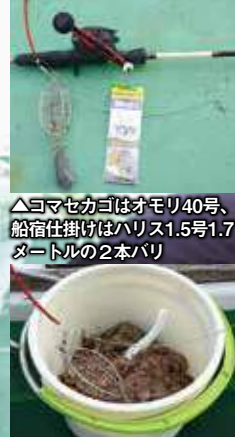




**東京湾奥深川出船**  
**丸まる太った良型ぞるい**  
**東京湾のライトアジ最高潮**

★当日最大33センチ。富士見のライトアジ船は3名から出船

写真●竹川啓二



△コマセカゴはオモリ40号、船宿仕掛けはハリス1.5号1.7メートルの2本バリ



△コマセはイワシミンチ、付けエサはアカタンが配られる



▲釣り場は木更津沖20メートルダチ  
 ▶エサが豊富な東京湾でスクスク育った居着きのアジは食味も最高  
 ▼25〜28センチ級が当日のアベレージサイズ



▲時合がくるとタナに合わせた途端に食ってくる  
 ▶抜き上げが基本ながら良型はタモで取り込もう  
 ◀ビル街を見上げながら運河を下り海へ出る  
 ▶慣れた人は追いの食いを狙って数をばす

▲1分ほど待ってアタリがなければ仕掛けを入れ替え、コマセを効かせて船下にアジを寄せる



東京湾奥で居着きの良型アジが上がっている。深川富士見のライトアジ船を担当する齋藤船長も「一番うまいのは初夏のころ」と言い、脂の乗りも抜群だ。釣り場は木更津沖の水深20メートル前後。好日は25センチ級主体に30センチオーバーの良型も交えてトップ50尾以上の盛況ぶりだが、潮が効かない時間帯はなかなか口を使わないこともある。そんなときでも粘り強くコマセをまき続けることが肝心で、アジの群れを船下に足止めしていれば、潮変わりなどの場合と同時に一気に食い始めることがある。

(詳細は54ページ参照)



●東京湾奥深川・富士見 齋藤 正雄船長